

**エントリー学校名：山口県立萩商工高等学校**

**活動名：** 生徒指導と自己有用感 ～コロナ禍における開発的生徒指導～

**解決すべき課題：** 近年本校においては、生徒指導上の問題行動は減少している反面、人間関係に悩みを持ち、自分たちで問題を解決することができない生徒が増加している。また、このコロナ禍において、自己の在り方や生き方について深く悩み、不安を抱える生徒が増加したように感じる。本校の生徒部内には、生徒指導係・教育相談係・特別活動係の3つの係があり、生徒の内面的な問題を解決するためには各係が連携して対応することが重要であると考え。なお、今年度は特別活動の従来通りの実施が難しいことから、このような状況の中で、いかに特別活動を充実させ、生徒の自己有用感を育成するかが喫緊の課題となった。

**目標・方針：** コロナ禍において特別活動を充実させるためには、従来通りの発想を転換するとともに、大きな行事を行うのではなく、小さな行事を生徒に考えさせ、年間を通じて活動をつなげることで、計画性や主体性・協調性、問題解決能力を身に付けさせるとともに、充実感や達成感ならびに自己有用感を感じさせることを目標とした。

**活動内容：** 5月25日より学校が再開されたものの、6月17日の生徒総会は各HR教室で放送によるアンケート形式で実施することとなった。それ以降の行事も、内容の変更や規模縮小が予想されたため、生徒総会で本校のスローガンを決定し、それを下に今年度の活動を行うこととした。生徒アンケートにより「萩商工 PRIDE ～無限の新化～」が採決され、スローガンを模したTシャツと看板を作製すること、Tシャツを着用してのレクリエーションを行うことが生徒総会で決定した。

・レクリエーション①（体育館、学年ごとにクイズ・ゲームを実施）従来のクラスマッチ（球技等）の代替行事

1年生：7月20日3・4限、2年生：7月21日3・4限、3年生：7月22日3・4限

・レクリエーション②（グラウンド、全校生徒で人文字「萩商工 PRIDE」を作製）

計画・練習：7月28日2～4限、本番：8月26日5・6限

・看板作製

生徒会・工業研究部による作製：7月6～20日放課後、看板設置①：7月22日～8月27日

全校生徒による手形色着け：9月10～23日放課後、看板設置②：10月1日～

**活動の成果：**

・レクリエーション①では、生徒会役員が主体となって企画・運営を行ったが、従来のクラスマッチよりもクラスの団結力が生まれ、生徒自身も自主的・主体的に、また活発な活動を行うことができた。

・レクリエーション②では、4つの専門科毎にリーダーを決めて計画・実行することによって、リーダーシップやフォローシップ及び協調性等を育むことができた。

・看板作製では、生徒会及び工業研究部の企画力や全校生徒の本校への帰属意識を高めることができた。

・11月に行われる文化祭・体育祭においても、規模は縮小されるが、「無限の新化」のスローガンの下、生徒主体で新しい形を企画し、実施する予定である。

・コロナ禍の中で、授業だけでなく特別活動を行うことで、生徒の笑顔が増え、自己有用感につながるができた。（9月に実施した学校生活アンケートでは、5割の生徒が「学校生活はとても楽しい」と回答した。）

**アピールポイント（アイデアや工夫）：**

・「萩商工 PRIDE～無限の新化～」のスローガンの下、「全校生徒がコロナ禍の現状に負けずに本校生徒の誇りを持って新しいことに挑戦する」という意識を、学校全体で共有することができた。

・それぞれの行事に、リーダーを置くことによって、生徒の自主的・主体的な活動を展開することができた。

・それぞれの行事を、スローガンの下につなげることによって、大きな行事・有益な活動へと発展させることができた。

●「学年レクリエーション」たくさんの笑顔が見られた。



●「生徒会・工業研究部作製の看板」



●「人文字作製」専門科毎にTシャツを色分け、科別に練習、リーダーシップが発揮された。



●「看板の手形色着け」全校生徒で新化させて、次（文化祭・体育祭）につなげる。

